

今年も早いものでもう少しで半年が経過しようとしている今日この頃です。

会員の皆様におかれては去る六月八日に長崎を含む九州北部も梅雨入りとかわですが、心身管理を十分に行いながらそれぞれの生活に励んで下さい。

そのような中、去る五月十四日(日)熊本市の公德会武道場で開催された合気万生道満五十二周年記念演武大会には本部をはじめとして各地から約五十組程の出場者が参加しました。

我が北海道からも二組の演武で浜田对桑原、田中侑の自由技、村里对古屋、大平の短剣技と以上五氏が迫力溢れる演武を砂泊大先生はじめ多くの観客が見る中、日頃の稽古の成果として披露することができました。

出場の皆様、あらためてお疲れ様でした。

また、翌週の五月二十一日は有段者交流研修会が同じく公德会武道場で正午から行われました。北海道からは野瀬だけの参加でした。

砂泊大先生は、最初少し遅れて来られたのでやや体調を心配しましたが道着に着替えられてからはいつもの元気で弟子たちにどんないろいろな技を指導されました。特に今回は立ち技、相手が平行取りで袖口を取ってきた時に返す技、これは筆者も始めての経験でしたがやはりここでも取られた箇所にごだわっていました。相手の思いつつば、要は相手に任せる気持ちがないと結べないことを痛切に感じました。



今回の本通信では、前回の第七号に引き続き、日頃から浜田道場長が忙しい仕事の合間に書き留めている合気道に関する思いの一端を紹介します。

「体捌き」について一般的に体捌きとは、体の変換であって、合気道においては、相手をかわす動きとして稽古をしている。

このことは、合気道の動きのみならず様々な武道においても重要であって、この動きを習得することにより技の上達になる。

有段者交流研修会では必ず、この「体捌き」について、呼吸力と合わせて砂泊先生から教えるを受けて

いるのであり、よく研修会に参加する有段者は体捌きの重要性を知っている。先生がよく言われるのは、「体捌きは、一人に対する万人の構え、万人に対する一人の構えであり、その動きは腰が中心になっている。そして、絶対に肩などに力を入れてはいけない。

また、捌くときには、どうぞおいでください、という気持ちがあればならない。」ということである。つまり、相手が来てから捌くようでは遅いということである。

しかしながら、凡人である我々は、相手が突きなり、横面打ちなりしてこないときできない部分もあるのだ、精神的な部分がわかるにはまさに、超人的な天才かあるいは、努力が必要である。

したがって、一生懸命努

力して、この体捌きについて極めてみたいものである。さて、「合気道は万人が進むべきみちであって、その目的は地上に樂園を作ることである。」という先生の教もいつも受けている。

また、植芝先生のビデオをみても超人的な動きと技の最後には、植芝先生は「相手を投げたり飛ばしたりしているのは邪道であって、真の合気道の目的は愛心愛和の世界をこの世につくることである。」ということを言われているが、なかなか、表面上の動きしかみることができず、苦慮しているのが現状である。

このような教えの中において、体捌きの果たす意味はなんであるかを思うに、確かに稽古において体捌きは重要であり、また、実社会の中においても、い

かにうまく危険から身をかわすかということも大2P
事である。

しかし、ある時、稽古の帰り道、車で走行中、片側二車線の道路で前方の車がうまく、後方の車が行きやすいように道を譲っているのではないか。

要するに、「どうぞお通りください」と言わんばかりに譲っている光景は、まさに合気道でいう「体捌き」の教えそのもののように感じた。

相手が通りやすいように、また、行きやすいように道を譲ってやる。これが「体捌き」の本質であり、こうした気持ちが生かされておいて大切と思うし、これが相手を思う気持ちにながってくるのである。

現代社会は、とかく相手のことを思う余裕もなく「われが先」という気持ちが先走り、衝突したり事故

したりで様々な影響を及ぼし、それが大きな問題となっている場合がある。

体捌きの意味は、そうしたことを防止するためにあるのであって、これがすなわち砂泊先生の教えであるのかもしれない。

相手が突いてきたり、打ってきたりを捌くのも、大切であると思うが、相手を感じる気持ちが本当に大切であって、そしてそれを実社会に生かすことを砂泊先生は求められていると思う。

よって、稽古においては絶えず相手を思うことは重要であり、またそうしたことが、合気道の真の上達につながっていくことになると思う。(平成十七年二月二十五日)



稲佐山で楽しい昼食

去る六月十一日の日曜日、梅雨入りしたばかりで前日から幹事の皆さんをやきもきさせていた天気も晴れてくれて、恒例の幼年部中心にレクレേഷョンを実施しました。

場所は、ここ数年は室内でのソーマン大会が続いていたので、今回はやや趣向を変えて松山の陸上競技場前に十時集合し、一路稲佐山まで歩きました。総勢五十名近くの参加者があり、前もってのお菓子や飲み物、氷などの買出し、松尾さん、市川さんありがとうございました。正午前に目的地に到着、

早速ビール片手に持ち寄った弁当を広げながらそれぞれで懇談し、その後は縄跳び、野球、ブランコごっこに楽しい一時を過ごしました。

その小道具として大平さんが持参してくれていた長めのロープが大活躍でした。

一般の会員の方、父兄の方、特に村里さんには解り易い出席簿作成などたいへんご苦労様でした。



タイミングをみながらね



大人もしばし童心で

【編集後記】

去る五月一日現在東背振インターからすぐの所に住居を構えておられる以前長崎北道場の幹部だった衛藤ご夫妻のところへおじゃましてきました。約二時間合気道談義に花が咲きました。

来る七月九日(日)は正午から熊本で有段者交流研修会と砂泊大先生の誕生祝賀会が開催されます。今回は「みろく」、そうあたかも第三六九回目の研修会でもあります。これに何か大先生の導きを感じるのは私だけでしょうか。できるだけ多数出席して慶賀を祝いましょう。